

総務常任委員会

千葉県八千代市

- 日にち 平成30年10月15日(月)
- テーマ 公共施設の複合化
- 所感 視察先の総合生涯学習プラザは、多くの利用者と賑わっており、事業として成功していると感じたが、運営側としては、利用率の高い施設と低い施設(会議室等)に差があることについて検討していくとのことであった。

PFI方式への整備検討を開始してから、選定業者とのアドバイザー業務委託契約の締結、特定業者の選定と公表、落札者の決定および基本協定の締結までのスケジュールがとてスムーズな印象を受けた。また、研修会等での積極的な情報収集や、研修先等で知り合う他市町の担当者との情報交換を行う姿を拝見し、本市としても、職員が研修会等に積極的に参加できるよう、応援体制の構築を支援していきたい。



総合生涯学習プラザでの視察の様子

千葉県流山市

- 日にち 平成30年10月16日(火)
- テーマ ファシリティマネジメントについて
- 所感 流山市の特徴は公共施設マネジメント啓発活動について、全職員を対象に庁内研修会を行っていることである。全庁的に全職員がアンテナを張っていることで、歳入については、新たな自主財源の確保が可能となり、財源がないためにあきらめざるを得なかった事業に取り組みやすくなった。歳出についても、新たな財政負担を伴わない仕組みづくりが効果として表れており、「仕方がない・我慢する」から「仕方を見つける・我慢しない」への転換を実施していた。本市においても、全庁的な研修会の開催が重要であると感じた。

流山市も、他の自治体職員同士の情報交換や連携を大切にしている。初めての事業は大変な労力であるので、外部研修の参加を通じての交流や連携が、お互いの市にとってプラスになっているとのことだった。この連携が、本市のこれからの公共施設マネジメントの取り組みに活用できるよう期待する。

経済建設常任委員会

静岡県焼津市

- 日にち 平成30年10月29日(月)
- テーマ 石脇川・高草川流域総合的治水対策推進協議会策定の100mm/h安心プランについて

●所感 焼津市では、平成15年7月と平成16年6月に内水被害が連続して発生したため、平成18年度に策定した「石脇川・高草川流域総合的治水対策アクションプラン」に基づき、関係機関が連携して、平成31年度をめぐり下流部の一連区間の河川改修を緊急的に実施している。平成30年度は、放水路工区と本川下流工区を分水するための分水工(護岸工)を実施して、事業が完了する予定である。

担当者の説明でも、雨水渠の整備を行っている現場の視察でも、焼津市の浸水対策は、全体的に本市の浸水対策とよく似ていると感じた。また、焼津市が、過去に浸水の起きた地区4カ所に優先的に設置している土のうステーション(土のう置き場)は、大雨に備え、市民の方が自宅を守るために必要に応じて土のうを使用できるようにしているもので、浸水対策とともに非常に参考になった。市民の方が何を考え、何に困っているのかを常に考えていくことが重要である。

埼玉県羽生市

- 日にち 平成30年10月30日(火)
- テーマ 羽生市のラウンドアバウト(環状交差点)について
- 所感 羽生市須影地内のラウンドアバウトは、中央島が10m、外径が27mで、交差点改良を伴うものとしては埼玉県内初のものである。本市でもラウンドアバウトの導入が検討されているため、羽生市が行った市民、通行者へのきめ細かい周知、例えばラウンドアバウトへの出入りや通行、車両の優先関係に関する注意事項や歩行者への配慮事項は、大変参考になった。また、現場には右回りであることを示す表示板が羽生市によって設置されており、初めての人でも回る方向がわかりやすくなっている点も参考になった。

本市がラウンドアバウトの導入を検討している場所は店舗が多いため、土地の確保が最優先になるが、計画的に一歩一歩確実に進捗していただきたい。



羽生市での視察の様子

厚生環境教育常任委員会

大阪府箕面市

- 日にち 平成30年11月1日(木)
- テーマ 障がいを持って生まれてから就労するまでのトータルな支援について

●所感 箕面市では、市全体で生まれた子の人生を支える仕組みができてきている。障がいを持って生まれたら、行政、教育、一般財団法人箕面市障害者事業団が切れ目なく、終わらない支援を行っている。学校のクラスにいろいろな障がいがある子がいることも、その子を手助けすることも普通のことである。その普通という風土が、就労支援の精神にもつながっている。地域で、という言葉と、風土、という言葉とを何度も話されていた。ともに学びともに育つ、というスローガンの中をもう少し詳しく見てみると、地域とともに地域で学び、地域の中で地域とともに育つ。障がいを持って生まれた子も一緒にこの地域で成長して一緒に学んでいる。

看護師の学校配置については、必要な場合に配置できるようになれば、より子どもや親の希望に沿った進学ができるため、本市でも取り組めるように提言していきたい。

大阪市西成区

- 日にち 平成30年11月2日(金)
- テーマ にしなりこども食堂について
- 所感 初めからこども食堂をつくらうと思ったわけではなく、子どもの居場所をつくりたいと思って始めたことである。運営をして気づいたことは、相当困った状態の子どもであっても、その子にとっては生まれた時からその状態なので、本人は困っていると思っていない。週に数回なので、家庭でリセットされてこども食堂にくるため、月曜日は荒れているが、通ううちに落ち着き戻ってくる。ごはんを食べずに子ども同士はけんかをするが、関わり合いの中で少しずつ出会った頃より変わってきているとのことであった。

あくまでも「こども食堂は貧困対策ではない、居場所だ」本市でも引き続き「子どもの居場所づくり」を念頭に置いた政策を押し進めていきたい。



にしなりこども食堂での視察の様子

